

令和8年度

多可町教育方針

及び 主要施策案



多可町教育委員会

はじめに

令和8年度は、多可町の教育が新たな章を開く節目の年です。多可中学校の誕生により、子どもたちは新しい仲間と出会い、学び合いながら自らの可能性を広げていきます。同時に、第3次多可町教育ビジョン(多可町教育振興基本計画・多可町教育大綱)が令和8年度から5年間の歩みをスタートさせます。教育理念である「明日の多可町を担う ころ豊かな人づくり」を軸に、「ふるさと力 ゆめ力 じぶん力 つながり力 げんき力の育成」をサブテーマに位置づけ、意欲、主体性、自己肯定感、思いやりなど、人生を豊かに生きるために欠かせない非認知能力の育成を重視します。これは、国が掲げるウェルビーイングの向上、兵庫県が目指す「在りたい未来を創造する力」とも深く結びつくものです。

多可町教育委員会では、この新たな教育ビジョンを確かな実践へとつなげるため、多可中学校の誕生を踏まえ、令和8年度における重点的な取組をまとめた「多可町教育方針及び主要施策」を定めました。新たな学校体制のもとで、子どもたちが安心して学び、挑戦し、成長できる教育環境を整え、各園・学校が目指す方向性を共有しながら、家庭・地域・関係機関と連携して取り組みを進めてまいります。

まず、すべての施策の土台として、子ども一人一人のいのちと人権を守り、安心して学べる環境づくりを徹底します。いじめの未然防止・早期発見・組織的対応を強化し、不登校や長期欠席への支援は、子どもの思いと背景に丁寧に寄り添いながら、学びと居場所を保障します。心の健康教育と相談体制を充実させ、子どもが安心して「助けて」と言える学校文化を育てます。

学びの面では、授業づくりスタンダード10ポイントをもとに基礎・基本の確実な定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む授業改善を進めます。ICTは目的ではなく手段として、個別最適な学びと協働的な学びを効果的に組み合わせ、学びの質を高めます。読書活動や体験活動、探究的な学びを通して、多可町の自然、文化、産業、人とのつながりを生かし、ふるさとへの誇りと愛着を育みます。

さらに本年度は、中学生のスポーツ・文化活動の地域展開がスタートし、子どもたちの学びと成長を支える環境を、地域へと広げていきます。加えて、小中学校全校がコミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を核に、地域と学校が一体となって子どもたちを育てる体制を本格的に推進します。これらは、多可町全体で子どもたちを育む「チーム多可」の教育を実現する、新たな挑戦の始まりです。令和8年度も「チーム多可」として、子どもたち一人一人の可能性が伸び、未来への希望を育める一年となるよう全力を尽くします。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年2月

多可町教育長 越川昌信

重点施策


- 1 いのちと人権を守る教育の充実による「つながり力」の育成
 - 「多可町心の健康教育」プログラムの全校実施
 - 「不登校対策アクションプラン」に基づく取組の推進
 - 「多可町いじめ防止対策改善基本計画」に基づく取組と検証委員会の開催
 - 学校・家庭・地域が連携した「あったかあいさつ運動」の推進
- 2 授業改善や読書活動の充実等による「ゆめ力・じぶん力」の育成
 - 「多可町授業づくりスタンダード」による授業改善の実装
 - 読書活動の活性化を目指した「第4次多可町こども読書活動推進計画」の推進
 - 読解力の育成を核とした「第3期多可町学力向上3か年計画」の実装
 - 小学3年生への学習支援員の配置
 - 「褒めて伸ばそう多可の子」の推進やボランティア体験の推奨
- 3 健康の保持増進と体力の向上による「げんき力」の育成
 - 食育や早寝早起き朝ごはん運動の推進と眠育（注1）の奨励
 - 運動習慣の定着や体力向上をめざした体育指導の充実
 - 健康に配慮した情報端末の使用と家庭と連携した検診治癒率の向上
 - 体力向上に向けた兵庫教育大学との共同研究
- 4 ふるさと教育の推進による「ふるさと力」の育成
 - 総合的な学習の時間等を活用した地域とつながる探究学習の推進
 - 「ふるさと教育ガイドライン」に基づいた指導の計画的推進
 - 多可町のヒト・モノ・コトを最大限活用した体験学習の推進
 - 環境体験学習等を通じた「木育」（注2）の実施
- 5 少子化をふまえた取組の推進と幼小中連携強化
 - 中学生のスポーツ・文化活動の地域展開の推進
 - コミュニティ・スクールの推進
 - 幼小架け橋プログラムに基づく幼小連携や小中連携のより一層の推進
 - 各区における「地域の学校教育のあり方を考える会」の開催
- 6 第3次多可町教育ビジョンの周知と実行
- 7 小中学校給食費の無償化

注1：眠育とは、睡眠についての正しい知識と習慣を身に付けるための教育。

注2：木育とは「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」教育。

主要施策


主要施策には、第3次多可町教育ビジョンで新たに教育理念のサブテーマとして掲げた「ふるさと力 ゆめ力 じぶん力 つながり力 げんき力の育成」との関連をピクトグラムで図示しています。


また、重点施策と関連した主要施策には  を、評価指標と関連したところにはアンダーラインを表示しています。さらに新規施策には（新）、拡充施策には（拡）とそれぞれ文末に記載しています。

1 幼児・家庭教育の充実

(1) 健やかな心身の発達を育む幼児教育の充実




◎認定こども園から小学校への円滑な接続を図るため、こども未来課と連携し保育・授業の公開や幼小交流会を行い、教職員の意識の向上に努め一貫性のある教育・保育を進めます。 


◎家庭・地域と協力し、「あいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」運動などを通して、幼児教育の充実に向けた取組を支援します。 

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
幼小交流会の実施回数	10回

(2) 安心して暮らせる家庭・地域づくりへの支援



◎児童館では、二次元バーコードを活用した申込等利用者の拡大に努め、夏の体験教室として木育を採り入れた「なつチャレ」などを通してこころ豊かでたくましい子どもの育成に取り組むことを小学校も情報提供に協力することで支援します。 

◎家庭教育支援冊子を配付し、あいさつ・早寝早起き・朝ごはん等子どもの基本的な生活習慣の確立を支援します。 

○学童保育は、こども未来課が町内の小学1年生～6年生について、定員の範囲内で希望者を受け入れます。また保育の充実を図るために、小学校は学童保育と連携します。

○「多可町こどもサポートセンター」等関係機関と連携しながら子どもの健全な養育を支援します。

○「夜9時以降SNSやりません運動」（小学生夜9時、中学生夜10時）などを推進し、SNS等の適正な使い方を周知します。

- 毎月第3日曜日の「家庭の日」の啓発を行い、「PTCA子育てフォーラム」や「家庭教育支援事業」を開催し、家庭の教育力の向上を支援します。
- 小中学校はこども未来課と連携しながら児童虐待とヤングケアラーへの対応を強化します。また、教職員や子どもへの啓発を行い、ヤングケアラーへの理解を深めるとともに、ヤングケアラーの早期発見に努めます。
- 校長会に「多可町こどもサポートセンター」の相談員を招き情報交換を図るなど連携を強化します。

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
希望者に対する学童保育受入率	100%
児童館利用者数	4,000人

2 学校教育の充実

(1) 確かな学力の育成



- ◎確かな学力の育成には、分かる授業の充実が重要です。「第3期多可町学力向上3か年計画」に基づき、各学校で具体的な学力向上プランを定め、全国学力・学習状況調査や全国規模の学力テストを踏まえた取組を多可町学力向上推進委員会で検証します。
- ◎学校図書館の充実を図るために学校司書を配置するとともに、不読率の改善を目指して導入した読書アプリを活用します。
- ◎すべての小学校に学習支援員を配置し、つまづきが出やすい小学3年生を対象として学力向上に向けた授業支援を行います。
- ◎「第4次多可町子ども読書活動推進計画」に基づき、本に親しむ子どもを育てる「家読」や「読書貯金」を推奨するとともに、学校において「朝読」を進めます。
- ◎家庭と連携し、「ノーメディアデー」を利用した「家読」を推奨します。
- 小中学校で放課後や長期休業中に教員OBや地域人材などを活かし、「多可町がんばりタイム（補充学習）」を実施し、タブレットドリルの活用など個別最適化された学びを通して、基礎学力の定着を図ります。
- 外国語指導助手（ALT）に加え、英語が堪能な地域人材を活かして英語教育の充実を図るとともに、小中学生の英語力及び学習意欲の向上を図るため、英語技能検定（4級以上）を受験する児童生徒に対して、年度内に1回、受験料の半額を補助します。


指標（めざそう値）	令和8年度目標値
授業内容がよく分かると感じている児童生徒 （全国比）	小(国 100, 算 100) % 中(国 100, 数 100) %
全国学力・学習状況調査の結果（全国比）	小(国 100, 算 100) % 中(国 100, 数 100) %


（２）豊かな心と健やかな体の育成





◎運動の楽しさや健康の大切さを伝え、運動習慣の定着を図るとともに、体力向上をめざした体育指導の充実を図ります。また、多可町体力向上推進委員会を開催するとともに、新体力テストの結果や兵庫教育大学との共同研究を通して体力向上に努めます。


（新）


◎「褒めて伸ばそう多可の子」を合い言葉に、学校・家庭・地域が連携しながら、褒めたり認めたり、ボランティア活動を推奨したりすることで子どもたちの自己肯定感や自己有用感を育みます。

◎子どもたちが日常生活におけるストレスや心身への影響について自分でチェックし、対処方法などを学ぶ「多可町心の健康教育」に取り組みます。また、有識者の助言を得ながら取組の効果検証を進め、学習内容の充実を図ります。

◎「山田錦」「杉原紙」「敬老の日」の発祥のまちとして、「多可町ふるさと教育ガイドライン」に基づき「多可町ふるさと副読本（デジタル版）」や「ふるさと教育情報サイト」等を活用し、カリキュラムに則り計画的に、多可町の自然や産業、伝統、歴史、文化等について学び、ふるさと多可町に愛着と誇りを持つ子どもを育成します。

◎総合的な学習の時間等を活用した地域とつながる探究学習を推進します。

◎食育指導を積極的に実施するとともに家庭や地域と連携し、子どもたちに食に関する正しい知識と朝食の摂取など望ましい食習慣を身に付けます。また、眠育を奨励し、基本的な生活習慣の確立に努めます。

◎目の健康などに留意した1人1台端末の使用を進めます。

○「多可町ふるさと検定」は1人1台端末で実施し、ふるさと多可町に愛着と誇りを持つ子どもを育成します。また、「ふるさと検定事前学習資料（エピソード版）」を活用した事前学習の充実を図ります。

○道徳教育については、重点目標を明確にした全体計画を策定し、道徳科を中心に豊かな道徳性を育む取組を推進します。

- 兵庫県の「人権教育基本方針」に基づき、人権にかかわる課題の解決に向け、総合的に取り組みます。特に同和問題については、「人権教育コア・カリキュラム」に基づき、発達段階に応じた学習を進めます。
- 毎月1日を「いのちと人権の日」と定め、各学校で子どもがいのちの尊さと人権について考える機会を設けます。
- 子育てふれあいセンター等と連携し、赤ちゃん先生、命の授業等、乳幼児や親、妊婦とのふれあい体験を通して、親の思いに気づき、自他のいのちの尊さを実感する学習を行います。
- 防災教育副読本「明日に生きる」や兵庫県教育委員会が組織している EARTH 員を活かして、「兵庫の防災教育」を進めます。
- 「敬老の日発祥のまち」として、敬老のうた「きっとありがとう」を授業に取り入れるなど、お年寄りを大事にする敬老の精神を育みます。また、全国おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展への作品出展を奨励し、姉妹都市や友好町と作品を通して交流します。
- 兵庫県弁護士会との協定に基づきスクールロイヤーを活用した相談体制の強化を図ります。
- 健診の結果をふまえた受診率の向上を促します。
- 地元食材を使用した献立により、地産地消を進めます。今年度も「多可町っ子いきいき献立」を提供し、地元食材の魅力を子どもたちに伝えます。

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
自分にはよいところがあると思う児童生徒（全国比）	小 100% 中 100%
ふるさとカリキュラムの活用（ふるさと検定）実施率	小 100% 中 100%
朝食を毎日食べる児童生徒（全国比）	小 100% 中 100%
新体力テストの結果（全国比）	小 100% 中 100%

（3）多様なニーズに応じた教育の推進



◎就学前教育から小中学校への円滑な接続が図れるよう、幼小架け橋プログラムを実行

します。幼小連携・小小連携・小中連携をより一層進め、認定こども園や小中学校との共通理解を図ります。



- 外国にルーツを持つ子どもが安心して学べるよう、日本語指導や母語支援を充実させるとともに、通訳・翻訳体制の整備や保護者との連携を図ります。また、教職員への研修や校内支援体制の強化、関係機関との連携により、多様性を尊重した学びの環境を整備します。（新）
- 小中学校では、県立特別支援教育センターや県立特別支援学校のコーディネーター等の助言を受けながら、校内の特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援委員会を定期的に開催し、P D C Aサイクルによる点検評価や全教職員の共通理解を図ります。
- 長期的視点に立ち、継続的な支援を行うため、サポートファイルの作成・活用を進めるとともに、保護者や臨床心理士、特別支援学校等と連携し、合理的配慮を提供しながら、一人一人の教育的ニーズに応える教育を推進します。
- 就学前の子どもには、臨床心理士・作業療法士による園巡回相談などを実施し、特別な支援を要する子どもを早期に発見し、小学校での適切な支援につなげます。
- 特別な支援を要する子どもに対しては、スクールアシスタントや生活補助員を配置したり、学校生活支援教員による通級指導を実施したりするなど、学習や生活上の困難を和らげるよう支援します。
- 不登校の子どもたちの社会的自立を促すため小中学校に不登校支援員（スクールラブ）を配置し、フェイスシートや支援計画を作成するとともに、ほのぼの教室（教育支援センター）や県の関連施設、民間団体の運営する施設とも連携します。また、子どもたちの希望に応じてオンラインによる授業配信を進めるなど1人1台端末の活用を図ります。

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
県立特別支援学校のコーディネーター等の派遣実施率	100%
不登校児童生徒のフェイスシートや支援計画を作成した割合	100%

（４）体験教育の推進



- ◎自立心、規範意識、ふるさとへの愛着心や共に生きる心を育むために、木育を採り入れた「環境体験学習（小学3年）」「わくわくベルディー（小学4年）」「自然学校（小学5年）」「杉原紙の卒業証書づくり（小学6年）」「ふるさとキャリア学習（中学1年）」

「トライやる・ウィーク（中学2年）」など、多可町のヒト・モノ・コトを最大限活用した体験学習を行います。






- ◎中学生が地域でボランティアとして活動し、学校外で様々な人とかかわることを通して、自分の世界を広げ、自尊感情や自己有用感を育む活動を進めます。
- キャリアノートやキャリアパスポートを活かし、子どもたちが生きる力を身に付け、社会人として自立していく力を育み、将来の夢や目標を持つ子どもを育てます。
- 姉妹都市協定をはじめ、各分野において多可町との友好関係が形成された市町村を中心に交流を推進します。
- 積極的に国際社会で活躍する意欲態度を育てるため、1人1台端末等ICTを活用した国際教育交流を促進したり、町内の小学5年生以上と中学生がALTや英語が堪能な地域人材、留学生等と英語でコミュニケーションを図り、体験活動を通して交流を深める「イングリッシュ・キャンプ」を行います。
- 児童会・生徒会活動等を活性化させるとともに、子どもたちに関わるルール等の制定や見直しの過程に子ども自身が関与するなどの取組を推進し、身近な課題を自分たちで解決する力を育成します。

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
将来の夢や目標を持っている児童生徒（全国比）	小 100% 中 100%
トライやる・ウィークへの参加が自分の考えや行動に影響した割合（全県比）	100%

（5）教育環境の充実



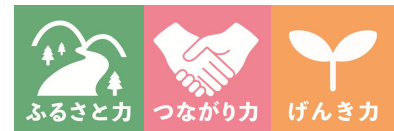
- ◎少子化の進展によって小学校において将来複式学級が出現する見込みとなったため第2次学校規模適正化基本計画に基づき「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、新たに小学校の適正規模についても各区ごとに協議を開始します。（新）
- ◎食材料費の値上がりに伴い給食費の単価の見直しを行い、小学校は1食あたり290円、中学校は1食あたり340円とし、これまでどおりの栄養バランスや量を保った学校給食を提供します。また国の小学校の給食費無償化にあわせ、町独自に子育て支援策として中学校の給食費も無償化します。（新）




- ◎全小中学校で学校運営協議会を組織し、保護者や地域の人々の意見を学校運営に反映するコミュニティ・スクールの充実に努めます。(新) 
- ◎中学生のスポーツ・文化活動の地域展開を推進しスポーツ保険の加入を支援します。また、就学支援を受ける家庭への参加費支援を行います。(新) 
- ◎学校経験が豊富な有識者を学力向上推進アドバイザーとして任命し、学力向上推進委員会において指導助言を受けるとともに、各学校へ派遣し「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善や校内研修の支援を強化します。 
- ◎「多可町いじめ防止対策改善基本計画」に基づき多可町いじめ防止対策検証委員会や事例研修会を開催することで、各校での取組を検証し改善を図り、いじめを許さない学校づくりを進めます。 
- ◎「多可町いじめ防止基本方針」や各学校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒カルテシステムを活用しながらいじめの未然防止、早期発見・早期対応に努め、迅速かつ組織的に対応するとともに、「学校生活相談シート」や教育相談の実施によりいじめの積極的認知に努めます。 
- 各校の実態に応じてGPH200（県先進事例集）等を積極的に取り入れ、子どもと向き合う時間の確保とともに、教職員の心身の健康維持とワーク・ライフバランスの実現に向け「業務量管理・健康確保措置実施計画」により勤務時間の適正化に取り組みます。(新)
- 校外学習や通学用として利用できるスクールバスを整備するとともに、小中学生の通学にかかる経費を軽減します。(拡)
- 「教職員の勤務時間適正化推進プラン」に基づき、定時退勤日やノー部活デーを実施します。また、教員に代わって資料作成や授業準備等をサポートするスクール・サポート・スタッフをすべての学校に配置します。さらに、時間外電話対応の留守番電話に加え、新たに多機能電話機を導入します。(拡)
- 教職員のキャリアに応じた体系的な研修を充実させ、若手教員の育成や学校経営力の向上に努めるとともにスーパーティーチャーや教職員OBの知見を積極的に活用し、組織全体の教育力と学校マネジメント力の底上げを図ります。また、学校経営研修講座等、女性活躍の観点から管理職のやりがいなどを伝える機会を確保します。
- 年1回の教職員のストレスチェック等メンタルヘルス対策を充実し、教職員が心身ともに健康で教育に携わることができる体制を整備します。
- 相談体制や職員研修等を充実させるなど、教職員のハラスメントのない風通しのよい職場作りに努めるとともに、学校園アドバイザーを配置し教職員の悩みなどの相談に対応し、関係機関との連携を図りながら教職員をサポートします。

- 子どもたちが一人で悩んだり、問題を抱え込んだりすることがないように相談しやすい環境づくりに努め、学校内外の相談窓口の周知徹底を図ります。多可っこ悩み相談窓口を常設し、子どもたちや保護者・学校の教職員等の悩み相談に応じます。また、生活環境が変わる学期はじめなどに、各種相談窓口の啓発を行います。
- 「多可町子育て・学校園サポートチーム」を組織し、学校園・家庭・関係機関等の連携による、生徒指導上の諸課題の早期解決に取り組みます。
- 学校評価の充実改善に取り組み、学校評価が学校運営に反映される効果的なシステムの構築に取り組みます。
- 少子化の進展に伴う学校再編の議論の行方を踏まえた上で、「長寿命化計画」に基づく必要な施設改修の実施や、指定避難所に指定された施設の防災機能の充実に努めます。
- 民間に委託している調理業者と連携し、安心・安全でおいしい学校給食を安定して提供します。また、食物アレルギー対応は、安全性を最優先とし、特定原材料（7品目）の完全除去対応で行います。
- 小学校に入学する子どもに一人あたり 50,000 円の入学祝金を贈呈し、健やかな成長を応援するとともに、保護者の経済的負担を軽減します。
- 白川教育生活支援基金を活用し経済的理由で高等学校への修学が困難な子どもに一人あたり 80,000 円の給付を行い、進学を支援します。
- 高等学校に進学する子どものうち経済的理由によって修学困難な子どもに対するハートフル学業支援金を支給します。
- 就学・就園援助として経済的に就学・就園が困難な子どもの保護者の負担を減らし、子どもたちが安心して生活できるよう、学用品など教育にかかる費用の一部を助成するとともに、一時預かりにかかる利用者負担も軽減します。
- 学校におけるネットワーク環境の充実のためにGIGAスクールサポーターを配置するとともに、家庭におけるインターネット環境を確保するため、就学援助家庭を対象に年額 14,000 円の通信費を給付します。
- 県立多可高等学校を支援するため多可町学校給食センターから希望者への昼食の提供（多可ランチサポート）を引き続き実施します。

指標（めざそう値）	令和 8 年度目標値
教職員の指導力向上を目的とした校内研修の実施回数（各校平均）	25 回
学校経営研修講座の女性登録人数の割合	40%
いじめ防止対策にかかる外部評価と事例研修の実施回数(年)	2 回

(6) 家庭・地域と連携した教育の推進



- ◎「地域とともにある学校づくり」を目指して多可中学校にも学校運営協議会を組織しコミュニティ・スクールを進めます。(新) 
- ◎地域やPTA等と連携しながら「あったか あいさつ運動」に取り組み、優れた取組を行っている個人・グループ等を表彰します。(再掲) 
- ◎学校運営協議会に学校運営の状況を説明するとともに、保護者や地域の人々の意見を学校運営に反映し、学校教育活動の充実に努めます。(再掲) 
- 青色防犯パトロールカーによる巡回補導や地域の子ども見守りサポート隊・こども110番の家と連携して、子どもたちの安全確保を図ります。
- 青少年育成センターが中心となって、青少年の非行防止及び早期発見のために定期補導等を行ないます。また、ネットパトロールを実施し、SNSの適切な活用を促すとともに、青少年が犯罪やトラブルに巻き込まれないよう、見守りと支援の体制を強化します。
- 「夜9時以降SNSやりません運動」(小学生夜9時、中学生夜10時)などを推進し、SNS等の適正な使い方を周知します。(再掲)
- 交通安全教室、防犯教室、防災訓練等を通して子どもたちが自ら身を守り安全を確保する能力を育成します。
- 放課後、地域の見守りのもと子どもたちが安全に自由遊びを楽しめる環境を整えます。
- 警察や地域ボランティア等の協力を得て、子どもたちが安心して安全に登下校できる体制づくりに取り組みます。
- 「多可町通学路交通安全プログラム」に基づき、学校・教育委員会・道路管理者・警察等が連携して通学路合同点検を実施し、危険箇所の実態把握、安全対策を行います。
- オープンスクールや学校だより、ホームページ等を通じて、学校の教育方針や取組、子どもたちの活動状況をタイムリーに発信するとともに、保護者からの声も積極的に集めます。
- 緊急時の情報発信の手段として保護者連絡ツール等を活かし、学校と家庭の連携を進めます。

指標 (めざそう値)	令和8年度目標値
子ども見守りサポート隊	120人
夜9時(10時)以降、SNSやりません運動の実施率	小90% 中75%

(7) 教育DX（注3）の推進



- 新たに小中学校に学習支援サービスを導入し「個別最適な学び」の実現や困難や課題を抱えた子どもたちの早期発見・早期対応に向けて、取組み事例の収集や課題の整理等を進め、教育データの分析・利活用を推進します。（拡）
- 統合型校務支援システムやS－w－e－b－i－cの活用により、児童生徒の指導カルテの共有、成績処理や出欠管理等のデジタル化や教職員の服務に関するデジタル化を推進し、校務の効率化を図り、教員が子どもたちと向き合う時間の確保に努めます。
- 各教科・科目等の年間指導計画に、ICTの活用、情報モラルに関する指導を位置づけ、体系的に情報活用能力を育成します。
- 1人1台端末の効果的な活用により、子どもたちの「個別最適な学び」と「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業づくりに努めます。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために1人1台端末を有効活用できるようICT支援員を2名配置します。また、デジタル教科書の活用と併せて授業支援ソフトを導入するなど、子どもたちが意欲的に取り組む授業づくりを支援します。
- 教職員のICT活用指導力及び情報モラル指導力向上を図るため、計画的で実践的な校内研修を実施します。
- 「多可町プログラミング教育全体計画」に基づき、すべての小学校に整備したロボット教材を活かしてプログラミング的思考を育みます。


指標（めざそう値）	令和8年度目標値
情報活用能力（情報モラル）について指導することができる教員の割合	90%
児童生徒にICT活用を指導することができる教員の割合	90%

注3：教育DXとは、単なる教育現場のデジタル化に留まらず、デジタル技術を活用して学び方、教え方、教育環境そのものを根本から進化させることを指す。これにより、個別最適な学びや協働的な学びの実現を目指す。

3 生涯を通じた学びの推進

(1) 生涯学習まちづくりプラザ「あすみる」を中心とした生涯学習の充実



- ◎子どもたちが安心して地域クラブによるスポーツ・文化活動を継続できるよう「スポカル・たか」を組織し、地域との連携のもと、指導者の確保、環境整備、支援体制の構築を図り平日休日を含めた地域クラブ活動を推進します。（拡）
- 「第4次多可町子ども読書活動推進計画」に基づく読書活動を推進し、子どもたちの読書活動を支援します。（新）
- 「多可町図書館基本計画」に基づき、地域づくりの情報発信基地や知の拠点として、暮らしに役立つ図書館を目指します。また、加美図書室や八千代図書室とともに、地域の憩いの場としてサービスの充実を図り、利用拡大に努めます。
- 読書通帳や読書手帳を推奨し、読書意欲の喚起や読書習慣の確立を図ります。
- 町内外の団体等と連携し、STEAM教育（注4）や木育に取り組む「土曜チャレンジ学習」を進めます。

指標（めざそう値）	令和8年度目標値
図書館の貸し出し冊数	150,000冊

注4：STEAM教育とは、STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科等横断的な学習を取り入れた教育。

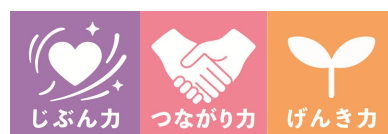
（2）文化の香るまちづくりの推進



- 「多可町文化財保存活用地域計画」に基づき貴重な文化財の保存活用を進めます。（新）
- 那珂ふれあい館は地域の歴史学習の拠点として、歴史ボランティアガイド等と連携しながら、「杉原紙」「山田錦」「敬老の日」の発祥のまち多可町の歴史・文化を積極的に情報発信します。また、那珂ふれあい館の体験講座を充実し、多可町の歴史と文化に興味関心を高める取組を行います。
- 「敬老の日発祥のまち多可町第37回全国おじいちゃんおばあちゃん子ども絵画展」を開催し、会場展示に加えWEB展示を行うことで、これまで以上に多可町から全国に向けて敬老精神を発信します。
- 地域の興味深い歴史遺産を対象に「おもしろ歴史セミナー」や学校園・集落等への出前講座を行い、一層多くの人に多可町の歴史・文化に触れる機会をつくれます。

- 全集落の伝統行事や歴史遺産などの調査を行い、歴史資料として取りまとめ、那珂ふれあい館の展示や各講座などに活かします。
- 杉原紙の総合調査の成果を活かし、町内外への普及啓発や情報発信を行うとともに、地域の誇りである歴史遺産として継承をめざします。
- 町内の文化芸能活動に取り組む子どもたちの発表の場づくりを進めます。
- 多可町播州歌舞伎クラブやカブキッズたか、囲碁、将棋、茶道の活動を支援し、郷土の伝統を活かし伝統文化の継承や次世代育成を図ります。

(3) 人権尊重・共生のまちづくりの推進



- 地域に学ぶ体験学習を通して、地域に対する愛着と誇りを醸成して人権課題の解決に向けての意欲と態度を育成します。
- 中学生を対象に様々な人権課題の解決に向けて、体験的な学習プログラムを用意した「ハートフルスクール」を通して豊かな人権感覚の育成を目指します。
- インターネット上の誹謗中傷等によるいじめを防ぐため、「多可町情報モラルカリキュラム」を改訂し、系統的な学びを進めるとともにネット見守り活動を引き続き行います。

むすびに

令和 8 年 3 月、第 2 次多可町教育ビジョン（多可町教育振興基本計画・多可町教育大綱）を改定し、第 3 次多可町教育ビジョンを策定しました。今回策定した計画は令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間の計画となっております。

基本理念は引き続き「明日の多可町を担う ころろ豊かな人づくり」とし、新たにサブテーマとして「ふるさと力 ゆめ力 じぶん力 つながり力 げんき力の育成」を掲げました。この度の改定では第 2 次多可町教育ビジョンの理念を継承しつつ、人生を豊かに生きるために欠かせない非認知能力や運動習慣、基本的な生活習慣を調和的に育てることにより、一人一人のウェルビーイングの向上と、持続可能な社会の創り手の育成を推進します。

そこで、令和 8 年度多可町教育方針の立案にあたっては、改定された多可町教育ビジョンの内容を踏まえ作成しました。この方針をより実効性のあるものにするために、多可町教育ビジョンに示されためざす指標と今年度めざす目標値を示しています。なお、持続可能な開発目標である SDGs（注 5）との関連については、上位計画である第 3 次多可町教育ビジョンの各項目との関連を表した資料を添付しました。

今後は、この方針を関係の皆様にご説明しご理解を得ながら、毎年度実施している「多可町教育の点検と評価」等により検証し、改善を行なうことで目標の達成に努めてまいります。そして、基本理念である「明日の多可町を担う ころろ豊かな人づくり」を目指すとともに、「子育てするならダントツ多可町」の実現を図ってまいります。

注 5：SDGs とは、「Sustainable Development Goals」の略称であり、日本語で“持続可能な開発目標”という意味。エスディージーエスではなく、エスディージーズと読み、それぞれの単語の頭文字と、最後にある Goals の s を合わせたもの。SDGs には、2016 年から 2030 年の 15 年間で達成すべき“世界共通の目標”として、貧困・健康と衛生・エネルギー・環境・平和など 17 種類の目標が提示。

